

引きこもりの悩み話して

引きこもりの子どもを支える親が交流する場をつくらうと、「全国引きこもりKJHJ親の会」県支部の「やい鳥の会」(竹中あおい会長)が四月から高知市内に集いのスペースを開設している。親と子だけで向き合い、行き詰まる事例もあるため、「親も肩の荷を下ろして」。そう呼び掛けつつ、毎週火曜日に開く「家族サロン」を世間話から悩みまで気軽に共有できる場にしようとしている。

(浜田佳奈)

「親の会の調査などで、経営で家族同士のつながりや引きこもりの人は全国で数十万―百万人おり、平均年齢は三十歳を超えているという。国は本年度から相談窓口や関係機関の調整拠点になる「ひきこもり地域支援センター」を全国に設置。本県は高知市丸ノ内二丁目の県立精神保健福祉センターに近く設けられる予定だ。

平成十八年に設立されたやい鳥の会は、勉強会や農園

家族交流へサロン開設 高知市

山崎瑞子さん(ハシ)が毎回待機し、「世間話でいい。自分の話をしてもいいし、ほかの人の話を聞くだけでもいい」と、自由な雰囲気をつくっている。

四月二十一日、三回目の集い。訪れた親たちは、引きこ

親の会「肩の荷下ろせる場所に」

より期間が三―十年になる二十一―三十代の子どもと向き合っている。

「何でそう(引きこもり)になったのか訳が分からんことがしんどくて」「社会の目が気になり、『何とかせな』と焦ってパニックになっていた」。心を閉ざす子に前にも、不安を感じてきた胸の内をのぞかせた。



引きこもりをめぐる悩みや情報を共有する家族サロン
(高知市の県立精神保健福祉センター)

「人生にはそういう時期もある、(社会復帰は)幾つになっても大丈夫、という心境になった」「うちの子もそんな時期がありました」と言われると、解決の道筋が見えてくる気がした。

知識や励ましを得て前向きになり、「子どもが大学に復

学した」と話す親もいた。

同会副会長

の坂本勲さん(五七)は「将来的には当事者同士が集まれる場所も、と考えるが、まずは親が肩の荷を下ろし、適切な判断ができるようになれば」と話している。

毎週火曜日(祝日は休み)の午後一時半―五時半にオープン。問い合わせは同センター(088・821・4966)へ。